

思いがけず突然起こりうる病気やケガ。そんないざという時のために整備されているのが、地域の救急医療体制です。安心して毎日の生活が送れるよう、また一刻を争うという場面でも落ち着いて対応できるように、救急医療について知っておきましょう。



特集 | もしものときの 救急医療

地域全体で取り組む救急医療

私たちは、いざという時、夜間や休日に関係なく病気やケガの治療を受けることができます。これは、医療機関と消防などが連携し、地域の救急医療体制が構築されているから。

医療機関の役割は、比較的軽症な方を対象とする「初期(一次)救急」と、緊急な治療・入院が必要な重症患者を対象とする「二次救急」、高度な処置が必要である重篤な救急患者に対応する「三次救急」に分けられます。

重症度や緊急性の高さで役割分担することによって、少しでも早く、適切な治療を行うことができる体制が整えられているのです。

救急医療体制と役割

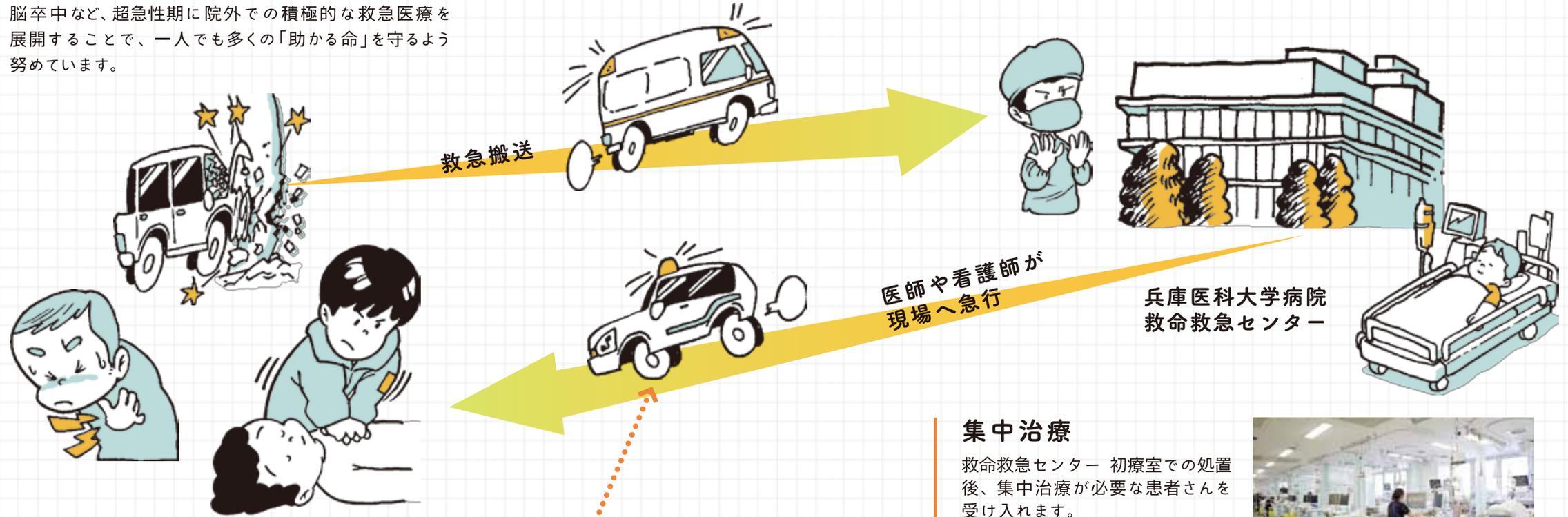


兵庫医科大学病院の救急医療

兵庫医科大学病院の救命救急センターは、地域の医療機関や消防などと連携し、阪神間7市1町(約190万人)の救急医療を担っています。

病院前救急診療(プレホスピタルケア)

傷病者の搬送を病院で待つのではなく、医師や看護師がプレホスカー(兼・DMATカー)で現場へ向かい、緊急処置や診断を行う「病院前救急診療(プレホスピタルケア)」を行っています。災害や事故発生時、あるいは心疾患や脳卒中など、超急性期に院外での積極的な救急医療を展開することで、一人でも多くの「助かる命」を守るよう努めています。



急性期医療と手術

急性医療総合センター1階の救命救急センターには、平時で最大5件の傷病者を同時に受け入れることができる初療室や手術室、熱傷専門治療室、CT室・X線撮影室などを設け、高度な救急医療を迅速に行っています。

集中治療

救命救急センター 初療室での処置後、集中治療が必要な患者さんを受け入れます。集中治療室(ICU)20床のほか、24床の救急病棟を各センターと協働で、臨機応変に運用しています。



救急医療を通じて社会に貢献するという想い

大学病院では三次救急の患者さんのみを受け入れる施設が多いですが、兵庫医科大学病院救命救急センターでは、見過ごされてしまうこともある多くの命を救うため、一次・二次救急の患者さんの受け入れも積極的に行っており、救急隊からの要請に対し応需率95%以上をめざしています。

大切にしているのは「救急医療を通じて社会に貢献する」という想い。誇りを持って地域の救急医療を担っていきたくて考えています。



DMATカー(兼・プレホスカー)

車内には大型バッテリー装置も装備。病院前救急診療や災害医療の移動手段として活躍しています。



災害医療

災害拠点病院として、災害時には多数の傷病者に同時対応できる設備・体制を整えるとともに、地域とも連携していざという時のための訓練も積極的に行っています。

DMAT(災害医療派遣チーム)

当院にはDMAT(災害医療派遣チーム)を2チーム以上構成できる体制があり、災害医療コーディネーター、統括DMAT隊員も在籍しています。東日本大震災、熊本地震等の被災地にも派遣されました。



2016年 熊本地震DMAT活動の様子

